

第2回 小田原市高齢者福祉・介護保険事業推進委員会（書面会議）の案件に対する質問及び意見の回答一覧

別紙

1 地域包括支援センターの運営について

No.	(1) 令和3年度地域包括支援センター事業の取組状況について	回答
1	各包括センターにおいて新規相談を20～30件／月受けていて、地域に頼られる存在となっています。相談解決や地域互助システム作りなどに専念できるよう、例えば介護予防マネジメント等の業務軽減についてご配慮下さい。	主任介護支援専門員・介護支援専門員部会の活動において、居宅介護支援事業所へのヒアリングの場などを通じて関係づくりに取り組んでいます。居宅介護支援事業所への再委託率の向上など、包括職員の業務軽減については引き続き検討してまいります。
2	包括はくさんにおいて、成年後見の相談が特に多い理由等はあるのでしょうか。	明確な理由は分析できておりませんが、民生委員とのパイプが強固であることや地域の特性によるものも影響しているのではないかと考えられます。
3	介護支援専門員は1つの居宅介護支援事業所に何人位いらっしゃるのでしょうか。この方達が在宅で療養している方との接点が一番強いのですか。保健師や看護師等の専門性はあるのですか。これからの時代大切な役目の人達でしょう。	居宅介護支援事業所の規模は様々ですが、1事業所当たりの平均で3人程度です。ケースにより様々ではありますが、在宅で療養している高齢者と最も深く関わるのは介護支援専門員であることが多いです。保健師や看護師の専門性としては、介護予防や認知症の方の支援などがあり、重要な役割を担っています。
4	コロナ禍でなかなか動きがとれなかった前年度に比べ、包括の事業が各支部毎に取組されていることがわかりました。	職種別部会事業は、感染状況に応じて対面の研修や居宅介護支援事業所へのヒアリングを実施しながら事業の実施につなげることができました。下半期は、社会福祉士部会ではWEB会議システムを活用した多職種交流会の開催も予定しており、更に積極的に事業を推進してまいります。
5	相談件数はどこの包括センターも殆ど変わらず、私がケア会議に参加させて頂いても専門職員は活動に参加していると思われます。ただ民生委員がどれだけ情報を持っているかまた情報を提供されても重荷に思う民生委員も多く、どう地域が協働できるかはこれからの課題。	民生委員の皆様には、できる範囲でのご協力を頂きたいと考えております。事情に応じ、地域包括支援センター側も十分に配慮しながら地域と協働してまいります。
6	コロナ禍で難しいですが、圏域ケア会議を各包括センターで開催できるように、オンライン会議を上手に活用して行う等、工夫が必要だと思います。	個別ケア会議ではWEB会議システムを利用した開催を行っている一方、圏域ケア会議では、出席者の中にWEB会議システムの利用が困難な方も多く、オンライン形式での開催が難しいのが実情です。また、自由闊達な議論のためには対面の方が良いとの意見もあり、開催形式については、オンライン形式での出席のために必要な端末の整備などと併せて検討してまいります。
7	各包括、コロナ過での取り組みに苦慮してきたかと思われます。そのような中、WEB会議システムにて交流などを行っている包括センターとそうでない包括センターの差は、委託法人の考え方によって、あるのでしょうか？ WEB会議システムの活用が全てで、できるよう市として考える必要があると考えます。	委託法人の考え方ではなく、交流会の内容や開催時期によって対面形式とオンライン形式の選択が分かれている状況です。WEB会議システムの整備については、引き続き受託法人に協力をお願いしてまいります。

No.	(2) 地域包括支援センターの機能強化について	回答
1	小田原市の基幹型包括支援センターの設置を考えてはいかがでしょうか。	現状では、高齢介護課地域包括支援係にて基幹型包括センターに準じた体制を維持し、基幹型包括センターに求められる機能と同等の役割を果たし各包括センターの運営支援を行っていることから、現時点においては設置の予定はありません。
2	災害時の指示系統の整理は是非お願いします。	各受託法人とご意見を交わしながら整理してまいります。
3	資料を読んで、災害が起きないことを祈るのみですが、いつ起きるか分からないのが感染症や災害なので、地域の役の人達が短い年数で代わってってしまうので、市で決めたことは分かりやすく地域の人達に伝えてほしい。役員だけでなく住民皆に市の考えを共有して公民連携していきたい。	市の考え方等につきましては、まちづくり委員会の場などを通じて地域の住民と共有していきたいと考えております。
4	1-(2)BCPの策定が法人ごとの組織ということですが、災害時隣接する包括センターの協力などはもり込まれるものなのでしょうか。	被災状況に応じて、業務を補完し合うような仕組みづくりについて議論しているところです。
5	毎日研修会は良いと思う。特にケアマネジャーの事例勉強が必要と思う。	各包括センターでケアマネジャーとの交流会を開催しており、スキルアップに繋げていきます。
6	BCPマニュアル作成へのプロセスは理解しました。今回の新型コロナウイルス（感染症）を災害と捉え、自然災害と合わせて検討していただければと思います。	今年度は自然災害に対するBCP策定に取り組んでいるところですが、感染症についてのBCP策定については、その後議論を進める予定でおります。

## 2 事業所等指定について

No.	(1) 介護保険事業所の新規指定等について	回答
	なし	